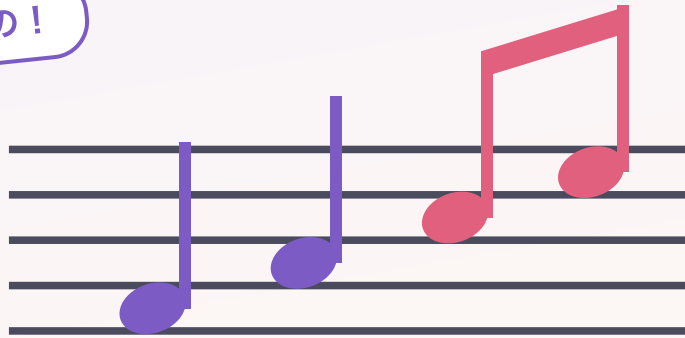


せーの！



ぴったり合った！

アンサンブルの基本

音を合わせると、世界が広がる



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょ

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まりま

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

アンサンブルとは	3～5
合わせるしくみ	6～11
そろえる工夫	12～15
アンサンブルを楽しむ	16～19
練習しよう	20～24
ふり返り	25～30

アンサンブルってなに？

複数人で音を合わせる楽しさを知ろう。

アンサンブルとは、**2人以上で音を合わせて演奏すること**です。もとはフランス語で「一緒に」という意味の言葉です。

一人では出せない響きの豊かさや、心を合わせる楽しさが、アンサンブルの大きな魅力です。



アンサンブル

ensemble

複数の人が一緒に演奏すること

合奏（がっそう）

ensemble playing

楽器で一緒に演奏すること

ポイント

- 歌でも楽器でも、2人以上で音を合わせればアンサンブルです。
- 一人で演奏するときとはちがう、聴き合う力が必要になります。

やってみよう

1. 身近にあるアンサンブルの例を1つ書こう。
.....
2. 友だちと手拍子を合わせて、簡単な合奏を体験してみよう。

ワンポイント 合唱や吹奏楽、バンドも、すべてアンサンブルの仲間です。

書いて覚えよう

- 少人数の合奏は、一人ひとりの音がよく聞こえ、責任も大きくなります。
- 大人数のオーケストラとちがい、細かい呼吸まで合わせやすいという良さがあります。



少人数だと、自分の音がまる聞こえで緊張するな。



その分、みんなの音がよく聴こえて、合わせやすいメリットもあるよ。

1. 少人数と大人数、それぞれの合奏のよいところを1つずつ書こう。

人数による呼び方のちがいを知ろう。

2人での演奏。duo（デュオ）

3人での演奏。trio（トリオ）

4人での演奏。quartet（カルテット）

- 人数が増えるほど、聴き合う相手も増え、まとめる工夫が必要になります。
- 弦楽四重奏（げんがくしじゅうそう）のように、決まった編成の名前もあります。

1. デュオ・トリオ・カルテットのうち、やってみたいのはどれ？

曲のいちばん目立つ歌の部分

メロディを支える動き

全体を下で支える音

- 全員が同じ動きをするのではなく、役割を分けることで曲に厚みが生れます。
- 役割は曲の中で入れかわることもあります。

1. 合唱や合奏で、あなたがやってみたい役割は？

6

演奏を始める合図を知ろう。

breath

息を吸う動作で始まりの合図を出すこと

eye contact

目を合わせて合図すること

- 演奏を始めるとき、誰かが小さくうなずいたり息を吸ったりして合図を出します。
- 合図がそろくと、全員が同じタイミングで音を出せます。

1. 友だちと2人で、息を吸う合図だけで同時に手をたたいてみよう。

- 顔を上げて相手を見ることで、テンポや強弱の変化を伝え合えます。
- 楽譜ばかり見ていると、まわりの音や合図に気づきにくくなります。

楽譜に集中しすぎて、まわりが見えなくなることがある。



ぼくも。ときどき顔を上げる練習をしてみようかな。

1. 次に楽器や歌の練習をするとき、1回は顔を上げてまわりを見る時間をつくろう。

呼吸でタイミングを合わせよう。

- 管楽器や歌では、息を吸うタイミングをそろえると、始まりがぴったりに合います。
- 弦楽器や打楽器でも、指揮者や仲間の息づかいを感じて合わせます。

1. 友だちと向かい合い、同じタイミングで息を吸って「せーの」で手をたたこう。

ワンポイント 息を合わせる練習は、緊張したときの呼吸を落ち着かせる効果もあります。

速さの感覚をそろえよう。

- 演奏前に、心の中やカウントでテンポを確認し合うことが大切です。
- 一人だけ速い・遅いと感じると、全体がずれる原因になります。

やってみよう

1. 友だちと「1・2・3・4」で同じ速さのカウントを声に出し、手拍子を始めるタイミングを合わせよう。

書いて覚えよう

バランスのよい音量を知ろう。

場面	主役の音量	支える音の音量
メロディの部分	大きめ	ひかえめ
伴奏だけの部分	ひかえめ	全体をはっきり

ポイント

- 自分の音だけを目立たせるのではなく、全体のバランスを考えることが大切です。

やってみよう

1. 合奏の音源を聴いて、どの楽器がいちばん大きく聞こえるか書こう。

書いて覚えよう

tone color

楽器や声もつ音の質感

- 同じ音の高さでも、出し方によって音色はやわらかくも、鋭くもなります。
- 合唱や合奏では、みんなで似た音色に近づける工夫をします。

1. 「やわらかい声」と「はっきりした声」で同じ音を出して、ちがいを感ぜよう。

リハーサルの進め方

練習の順番を工夫しよう。

① 全体を通す

② 苦手な部分だけ

③ もう一度通す

Emmaの例

① 全体を通す 気になるところをメモ／② 苦手な部分だけ ゆっくり反復／③ もう一度通す 直ったか確認

ポイント

- 最初から最後まで通したあと、うまくいかない部分だけを取り出して練習すると効率的です。

書いて覚えよう

- 「ここはこうした方がいいと思う」と理由をそえて伝えると、受け入れられやすくなります。
- 相手の演奏を否定するのではなく、良いところも一緒に伝えましょう。



ここ、もう少しゆっくりのほうがいいかな。どう思う？



いいね、試してみよう。

1. 仲間に伝えるときの言い方を1つ考えて書こう。

まちがいの伝え方

やさしく気づかせる言葉を知ろう。

よくない伝え方

きつく聞こえる

「ちがうよ」だけ

理由がわからない

人前で強く言う

はずかしい思いをさせる

よい伝え方

やさしく伝わる

「ここ、こうしてみない？」

一緒に直す姿勢

あとで個別に伝える

気まずさを減らす

ポイント

- まちがいを指摘するときも、仲間として一緒に直していく気持ちが大切です。

書いて覚えよう

気持ちよく合奏するための心がけを知ろう。

ポイント

- 練習に遅れない、楽器の準備をしておくなど、基本のマナーが合奏を支えます。
- 自分のパートだけでなく、全体の音を尊重する気持ちを持ちましょう。

やってみよう

1. あなたが気をつけたいアンサンブルのマナーを1つ書こう。

書いて覚えよう

室内楽

少人数の編成でつくられる音楽は「室内楽（しつないがく）」と呼ばれ、古くから親しまれています。

- 室内楽は、教会や広間など比較的小さな空間で演奏されてきた歴史があります。

- 音がぴったり合った瞬間は、一人の演奏では味わえない大きな喜びがあります。
- 仲間と一緒に作品をつくり上げる過程そのものも、アンサンブルの楽しさです。

1. これまでに友だちと音を合わせて楽しかった経験を書こう。

身近な場所で発表する機会を考えよう。

- 大きなホールでなくても、教室や家庭など身近な場所で発表する「小さな本番」を持てます。
- 小さな本番の経験が、次の挑戦への自信につながります。

やってみよう

1. 友だちや家族の前で、2人で合わせた演奏を発表してみよう。

書いて覚えよう

20

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

仲間と合図を合わせる練習をしよう。

- A (うなずいて合図) セーの
- B (同時に) タン!
- A (新しい合図で) _____
- B (合わせて) _____
- A (役割を交代して) _____
- B (合わせて) _____

ポイント

- 合図を出す役を交代しながら練習すると、両方の視点が身につきます。

ワンポイント 最初はゆっくり、うまく合ったら少しずつ速くしてみましょう。

書いて覚えよう

つまずきの原因と直し方を知ろう。

よくあること

楽譜ばかり見ている

自分の音しか聞いていない

相手任せになっている

こうしてみよう

合図に気づく

バランスを合わせる

主体的に合わせる

1. あなたがつまずきやすいのは？

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

人数の言葉

☐ デュオ

2人での演奏

☐ トリオ

3人での演奏

合わせる言葉

☐ アンサンブル

複数人で一緒に演奏すること

☐ 音色

楽器や声をもつ音の質感

練習の言葉

☐ リハーサル

本番前の練習

☐ 室内楽

少人数編成の音楽

役割の言葉

☐ 主旋律

曲のいちばん目立つ部分

☐ 伴奏

メロディを支える動き

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。

書いて覚えよう

復習クイズ

ここまでの内容をチェックしよう。

1. 言葉と意味を線でむすぼう

- | | | |
|--------|---|--------------------|
| アンサンブル | ● | ● ア. 2人での演奏 |
| デュオ | ● | ● イ. 少人数編成の音楽 |
| 主旋律 | ● | ● ウ. メロディを支える動き |
| 伴奏 | ● | ● エ. 曲のいちばん目立つ部分 |
| 室内楽 | ● | ● オ. 複数人で一緒に演奏すること |

2. 人数を表す言葉を2つ書こう

1. _____
2. _____

3. 合図を合わせる方法を2つ書こう

1. _____
2. _____

書いて覚えよう

ふり返しチェック

できるようになったことを確かめよう。

- | | | |
|--------------------------|-----------------|-----------|
| ☐ | アンサンブルの意味を説明できる | 合わせて演奏する力 |
| ☐ | 合図の出し方を知っている | 伝える力 |
| ☐ | 相手の音を聴きながら演奏できる | 聴く力 |
| ☐ | まちがいをやさしく伝えられる | 伝え方の工夫 |
| ☐ | 仲間と1曲合わせてみた | 合わせる経験 |

ポイント

- ✓がつかなかった項目は、もう一度そのページにもどってみましょう。

書いて覚えよう

家族と手拍子を合わせて挨拶リズムをつくる

好きなアンサンブル曲を聴く

鏡の前で合図を出す練習をする

友だちと通話でリズムを合わせる

今日気づいた「合わせる工夫」をノートに書く

家族の前で2人組の小さな演奏をする

ポイント

- 少しずつでも、続けることで合わせる力がついていきます。

書いて覚えよう

発表してみよう・感想を書こう

仲間と合わせた演奏を人に伝えよう。

組んだ相手

演奏した内容

工夫した合図

聴いてほしい人

Kenの例

組んだ相手 Emma／演奏した内容 手拍子のデュオ／工夫した合図 目を合わせてうなずく／聴いてほしい人 家族

感想を3文で書こう

① アンサンブルをして、～な感じがしました。② とくに、～のところがむずかしかったです。③ それは、～だからです。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

アンサンブルの世界をさらに広げよう。

もっと知りたい人へ

動画で

室内楽の演奏を見る

演奏会へ

小さな編成のコンサートに行く

仲間と

もう一度合わせてみる

次のステップ

聴き合う

お互いの音を深く聴く力

テンポ

速さをぴったり合わせる力

表現

気持ちを重ねて伝える力

ポイント

- この教材の次は、耳の力をさらに育てる「聴き合う」です。

書いて覚えよう

教室の外でも、アンサンブルを楽しもう。

町や動画でアンサンブルの演奏を探す

友だちと**手拍子**を合わせる

気づいたことを**仲間**に伝える

L26 アンサンブル→オ デュオ→ア 主旋律→エ 伴奏→ウ 室内楽→イ
2. デュオ / トリオ / カルテット 3. 目で合わせる / 息で合わせる

書いて覚えよう

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。